



経済日誌

2024年7月15日～2024年8月14日の主な出来事(新聞記事等より)



7.17 熊本-台北 搭乗率86%

熊本空港と台湾の桃園国際空港を結ぶ台北線の搭乗率が好調となっている。昨年9月に新規就航し、今年6月までの10カ月間の平均は86%と高い。TSMCの熊本県内進出を契機にしてインバウンドの関心が高まっていることに加え、台湾への観光客に対する県の助成も、高い搭乗率維持を後押ししている。

7.19 渋滞緩和に向けトップ連携

木村県知事と大西市長は、長年の課題となっている熊本都市圏の交通渋滞解消に向け、初めてのトップ会談を実施した。半導体関連企業の集積でさらなる悪化が懸念される中、両トップの連携によって、解消に向けた対策の加速を図る。今回は熊本市内で取組む、交差点の改良や効率的な信号制御といった短期的対策を年内に具体化することで合意した。

7.20 熊本市消費者物価 2.6%上昇

熊本県統計調査課が発表した6月の熊本市の消費者物価指数(2020年=100、生鮮食品を除く)は、前年同月比2.6%上昇の107.4だった。上昇は28カ月連続で、伸び率は前月と同じ。食料の伸び率は前月から1.3%縮小したが、電気やガソリンといったエネルギー関連が押し上げた。

7.30 八代利便、上半期輸出4年ぶり減

八代市は、上半期の貿易概況(速報値)を発表した。輸出は前年同半比4.9%増の1,000億円を記録したが、輸入は前年同半比1.9%増の1,000億円となり、貿易黒字となった。輸出は前年同半比4.9%増の1,000億円を記録したが、輸入は前年同半比1.9%増の1,000億円となり、貿易黒字となった。

7.30 井関農機 益城工場閉鎖へ

農業機械メーカー大手の井関農機が、熊本県益城町にある生産子会社の工場を2025年末に閉鎖する方針であることが分かった。生産効率化に向けた国内拠点再編の一環。工場は交通利便性が高い場所に立地し21.7haの広さがあり、TSMC進出を契機として工業用地の不足が課題となっている県内において、跡地の利活用に注目が集まると考えられる。

8.2 県内主要企業 黒字転換7割

熊本県内主要企業の2023年度決算は、純損益が増益か黒字転換となった企業が7割を占め、半数超だった前年度を上回った。コロナの5類移行をきっかけとした人流の回復が、幅広い業種の業績に好影響をもたらした。24年度決算は、6割弱が増益か黒字転換を見込むも、エネルギー関連をはじめとする物価高や人件費といった費用増を見込む企業が多く、業績の押し下げ要因になることが懸念される。

8.6 JASM 地下水涵養拡大へ地域と協定

TSMCの子会社JASMと菊陽町、大津町、JA菊池の4者は、菊陽、大津の両町が含まれる白川中流域での農業振興に向けた協定を結んだ。農家の水稻作付面積拡大を支援し、地下水涵養量を増やす狙い。JASMは白川中流域で育った「地下水涵養米」を年間60トン以上購入する予定で、100万トンの涵養につながるという。

8.8 県内地銀、金利引き上げ

県内地銀の肥後銀行と熊本銀行はいずれも、貸出金利の指標となる短期プライムレート(短プライム)の引き上げを受け、貸出金利を引き上げた。日銀の追加引き上げに伴う対応で、引き上げは2007年以来、約17年ぶり。短プライムは、企業に1年以内の融資をする際に使う最優遇金利の基準となり、変動型住宅ローンの金利にも反映される。

以降は会員専用ページにて公開しております。
ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)